

講義名	言語と社会(2)			授業形態	
担当教員	濱田 真由美 / 蘭 梅	開講期・曜日・時限	前期 水曜日 1時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

主題と概要

本学独自のCan-doリストに基づき、英語と中国語の基本的な定型表現を身に付けることによって、異文化と多様性を理解する態度・姿勢を育成します。全15回の授業を前半7回・後半8回に分けて、英語と中国語の二言語を学習します。なお、クラスによって、英語中国語あるいは中国語英語と授業進行が異なります。英語中国語のクラスは後半の中国語が8回、中国語英語のクラスは後半の英語が8回となります。

到達目標

英語と中国語の二言語の基本的な特徴と構造を理解し、短期間海外に滞在することなどを想定しながら、ホテル・食事・買い物などの実際の場面で「初歩の会話が」できるようにする。

提出課題

適宜指示します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

小テストは次回の授業で講評を行います。（中）

評価の基準

評価の内訳は以下の通り（英・中とも同じ）：クイズ（毎回授業で実施する小テスト）50%・授業参加度・授業態度50%。両言語の評価の合計を100点に換算。

履修にあたっての注意・助言他

出席欠席にも厳格なルールがあります。全15回の授業のうち、欠席5回で不合格となります。15分までの遅刻は、遅刻3回で欠席1回の扱い。

教科書

・教材はプリントを配布します。

参考図書

・必要に応じて案内します。

その他

必要に応じて適宜指示します。

授業計画

- 英語Unit 1: Introducing yourself
予習：シラバスを熟読し、授業準備をする（2時間）/ 復習：テキストの音読・単語の復習（2時間）
- 英語Unit 2: Talking about interests and hobbies
予習：分からない単語を調べる（2時間）/ 復習：テキストの音読・単語の復習（2時間）
- 英語Unit 3: Airport and immigration
予習：分からない単語を調べる（2時間）/ 復習：テキストの音読・単語の復習（2時間）
- 英語Unit 4: Hotel
予習：分からない単語を調べる（2時間）/ 復習：テキストの音読・単語の復習（2時間）
- 英語Unit 5: Fast food restaurant
予習：分からない単語を調べる（2時間）/ 復習：テキストの音読・単語の復習（2時間）
- 英語Unit 6: Shopping
予習：分からない単語を調べる（2時間）/ 復習：テキストの音読・単語の復習（2時間）
- 英語Unit 7: Directions
予習：分からない単語を調べる（2時間）/ 復習：テキストの音読・単語の復習（2時間）
- 中国語第1課「中国のひと・くに・ことは」
予習：図書館やインターネットで中国や中国語について調べる（2時間）/ 復習：教材プリントのふり返り・残りのドリル（2時間）
- 中国語第2課「中国語のしくみを知る」
予習：単語帳（簡体字・ピンイン練習）（2時間）/ 復習：会話文の音読・残りのドリル（2時間）
- 中国語第3課「自己紹介」
予習：単語帳（簡体字・ピンイン練習）（2時間）/ 復習：会話文の音読・残りのドリル（2時間）
- 中国語第4課「あれは何で、すか」
予習：単語帳（簡体字・ピンイン練習）（2時間）/ 復習：会話文の音読・残りのドリル（2時間）
- 中国語第5課「きょうた、いはいますか」
予習：単語帳（簡体字・ピンイン練習）（2時間）/ 復習：会話文の音読・残りのドリル（2時間）
- 中国語第6課「と、こへ行くので、すか」
予習：単語帳（簡体字・ピンイン練習）（2時間）/ 復習：会話文の音読・残りのドリル（2時間）
- 中国語第7課「今日はわたしがごちそうします」
予習：単語帳（簡体字・ピンイン練習）（2時間）/ 復習：会話文の音読・残りのドリル（2時間）
- 英語/中国語：まとめUnit
（英）予習：分からない単語を調べる（2時間）/ 復習：テキストの音読・単語の復習（2時間）
（中）予習：単語帳（簡体字・ピンイン練習）（2時間）/ 復習：会話文の音読・残りのドリル（2時間）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	○ エ：グループワーク
オ：ブレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

外国語を用いて「人と円滑なコミュニケーションをとることができる」資質・能力を育み、商学部生に求められる「各業界の動向や問題点を理解するための基礎知識」、経済学部生に求められる「人間、社会に関するこれまでの学問的成業の基礎」、人間社会学部生に求められる「日常生活と文化といった現実社会の様々なテーマ」に習熟し「コミュニケーション能力」の育成を目指します。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考